新元号に関するアンケート調査 結果報告

学会通信編集委員会では、平成から令和への改元という歴史的な転換に際して、新元号に関する意識を漢字という側面から調査すべく、アンケートを行いました。突然のお願いにもかかわらず、多数の方にご協力していただきました。感謝申し上げます。また、編集委員会の不手際によって不快な思いをさせてしまった方もございました。心よりおわびを申し上げます。

以下に、アンケートの集計結果をご報告いたします。

●アンケートの概要

［実施日］二〇一九（平成三一）年四月二五日～同（令和元）年五月六日

［方法①］日本漢字学会の会員、漢検生涯学習ネットワーク会員、立命館大学認定の漢字教育士などを対象とした、ウェブアンケート。回答数二百十九。

［方法②］漢検漢字ミュージアムへの一般来館者を対象とした、紙のアンケート。回答数百九十二。

回答者の性別・年齢層ごとの内訳は、下の表の通りです。

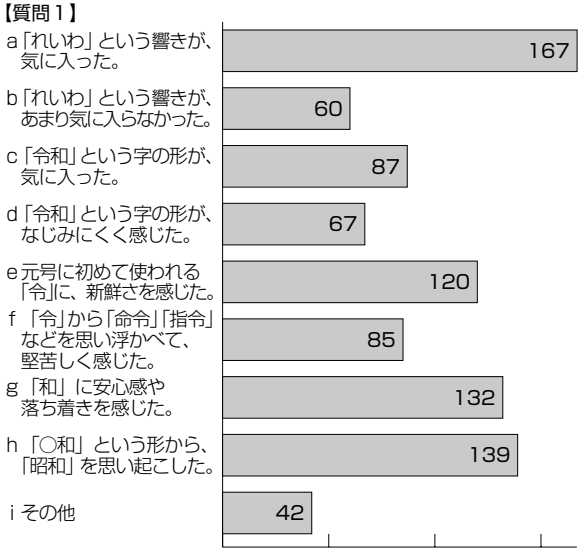
	男性	女性	無回答	合計
19歳以下	17	47	19	83
20代	16	22	12	50
30代	23	17	10	50
40代	27	28	18	73
50代	29	43	1	73
60代	26	16	3	45
70歳以上	30	7	0	37
合計	168	180	63	411

【質問1】「令和」という元号を初めて知った時、どのような印象を持ちましたか？（複数回答可）

aとbを比較すると、響きの面ではかなり好印象を持たれていることがわかります。eの「新鮮さ」も合わせて考えると、「令和」の新しさは前向きに受け入れられているようです。

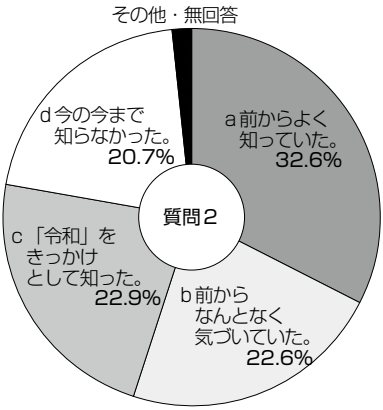
一方、字形の面では、cの「気に入った」人もdの「気に入らない」人も全体の二割前後で、受け止め方が分かれていることが窺われます。年齢層ごとの集計では、十九歳以下と二十代では、字形を気に入っている人の率が三割を超えていました。

fのように「命令」を思わせる堅苦しさをイメージする人は、全体の二割程度と、それほど多くはありませんでした。hの「昭和」を思い起こす人も三割程度でしたが、年齢層ごとに集計したところ、最も率が高いのは三十代で五割弱、年齢が高くなるにつれて下がり、七十歳以上では十五％を切るという、興味深い結果が現れています。



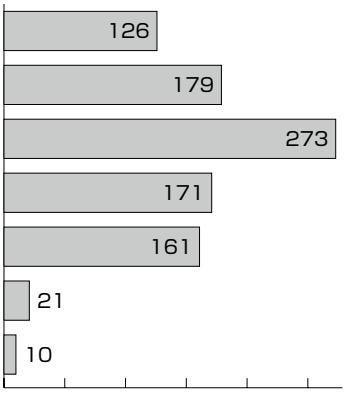
【質問2】「令」という漢字には、「令嬢」「令夫人」のように「すばらしい」「美しい」といった意味があります。そのことをご存じでしたか？

学会員などを対象としたウェブアンケートでは、aの答えがさすがに多く、約半数を占めています。逆に、漢字ミュージアムへの一般来館者による紙のアンケートがほとんどを占める十九歳以下では、dの「今の今まで知らなかった」が五割を超えるという結果でした。



【質問3】「和」という漢字を見て思い浮かべるイメージは、どのようなものですか？（3つ以内で選択）

aからeまでどれも多いですが、cの「平和」なイメージを挙げた方が全体の約三分の二に達しているのが、注目されます。aのように人柄を思い浮かべる人はやや少なめで、cやdのように社会や人間関係と関わりが深い漢字であることが窺われます。そのほか、eの「和風」を選んだ人は全体では四割弱ですが、若年齢層ほど率が高く、七十歳以上では三割以下なのに対して、十九歳以下では六割近くに達しています。

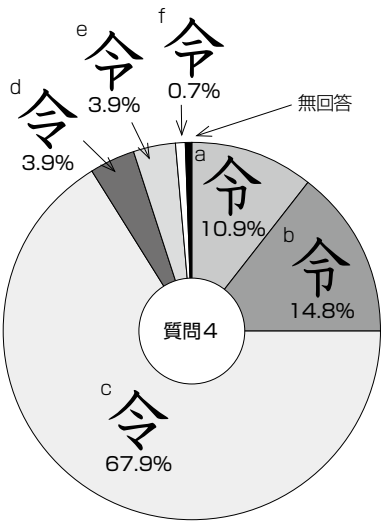


【質問4】あなたはふだん、「令」という漢字を手書きで崩さずに書くとき、どのような形で書いていますか？

「令」の字形についてはいろいろと報道もされましたが、このアンケートでは、学校で習う筆写字形のcが、活字字形のbの四倍近い支持を集めて圧勝するという結果となりました。年齢層による違いはあまり認められませんでしたが、十九歳以下でbの活字字形が三分の一近くを占めているのは、若くてまだ字形に対する意識が定着していないということでしょうか。ただし、二十代ではぐっと下がって十五％程度。若さにだけ原因を求めるのは、早計かもしれません。

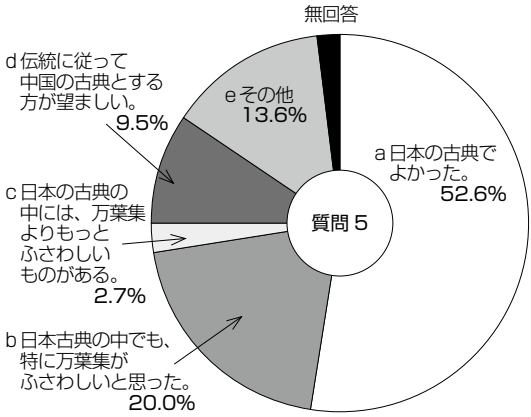
なお、新元号発表時に示された墨書は、やや大げさに示すと、gのように最後の縦棒が左にはねた形。そこで、gとhの選択肢も用意してみましたが、選んだ方はゼロでした。

g 令　h 令



【質問5】「令和」の出典について、どう思いましたか？

日本の古典を典拠とする元号が初めて選ばれたことについては、好意的な反応が大半を占めました。学会員などを対象としたウェブアンケートでも、d「中国の古典とする方が望ましい」を選んだ人は十五％程度でした。

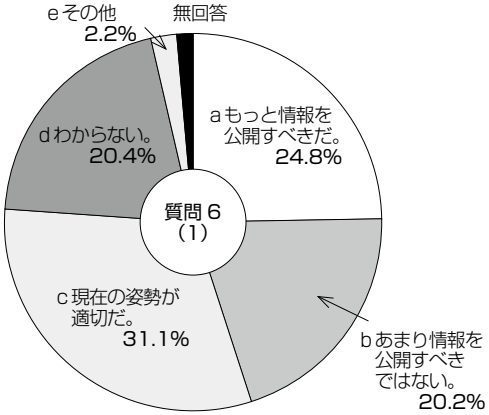


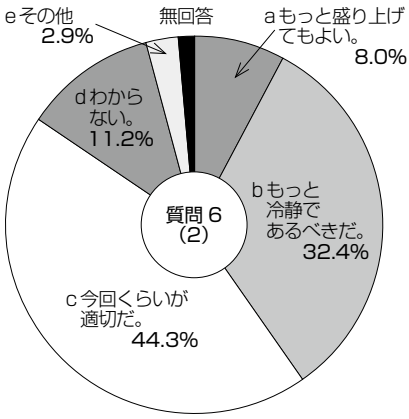
質問文がやや抽象的だったため、とまどった方もいらしたようで、申し訳ありませんでした。そのせいか、自由記述のご意見を多くいただきました。その中では、〝出典には特にこだわりを感じない〟とするものと、〝中国で生まれた漢字文化が、日本でも受け継がれて発展してきたことが重要だ〟というご主旨のものが目立ちました。

【質問6】今回の新元号制定に関する次の点について、どう感じていますか？（一つ選択）

（1）新元号の選定過程や考案者の公開に、政府が積極的ではないことについて

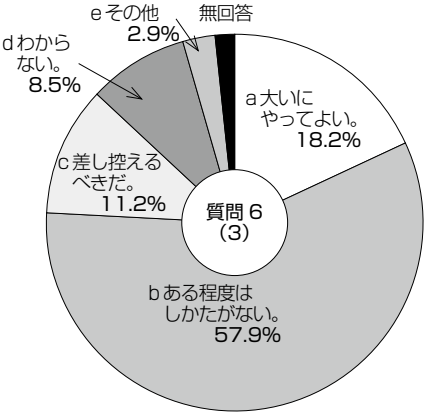
質問文に主観的な文言が混じってしまい、反省しております。それを差し引いて考察する必要がありますが、a～dの回答がいずれも二割を超え、ばらついた結果となりました。年齢層ごとでは、a「もっと情報公開をすべきだ」の率が一番高かったのは二十代で、三十四％、b「あまり情報を公開すべきではない」の率が最も高かったのは三十代で、三十二％となっています。また、aについては、学会員などを対象としたウェブアンケートの方が割合が高い、という傾向が見られました。





（2）新元号をめぐる報道のあり方について

b「もっと冷静であるべきだ」も多いですが、c「今回くらいが適切だ」はさらに多く四割を超えていますので、今回の報道のあり方がある程度、受け入れられたと見てよいでしょう。ただし、学会員などを対象としたウェブアンケートでは、bの率が四割を超え、cをわずかですが上回るという結果になっています。



（3）新元号の便乗商品を発売したり、新元号を企業名に付けたりする風潮について

当然といえば当然ですが、b「ある程度はしかたがない」が六割近くに達しました。七十歳以上ではc「差し控えるべきだ」の率が二割を超えていますが、bも七割を超えています。a「大いにやってよい」の率が高かったのは十九歳以下と二十代で、それぞれ三割を超えるという結果でした。

【質問７】以上のほか、新元号に関してご意見やご感想などがあれば、自由にお書き下さい。

全体で四百十一通の回答のうち、百二十六通に何らかの記述をしていただきました。新元号に対する関心の深さがうかがい取れます。

内容としては、質問3と重なりますが、「平和」をイメージしてよい時代になるように願う人が多い一方、「昭和」から間もないのに「和」の字が選ばれたことに驚く声も、少なからず記されていました。また、「令」の意味をめぐる議論や、出典に『文選』を含めるべきだとの意見もありましたが、改めて、書きやすくて響きもよく、よい元号だとする評価も目立ちました。

そのほか、「令」の書き方が複数あることについては、とまどっている人もやはり少なくないようです。

（文責、編集委員会）